

病棟看護師の老年看護実習指導における学生に期待することの分析

阿部 緑* 煙山 晶子** 小笠原 サキ子**

要 旨

研究目的は、病棟看護師が学生に対しどのような期待をもちながら実習指導をしているのかを分析し、実習指導者としての役割課題への示唆を得ることである。病棟看護師17名に、無記名で、実習指導場面に関する次の5項目：1. 学生との関わりの有無、2. 行動計画発表時、対応に困ったこと、3. 学生と一緒に処置・ケアを行って、困ったこと、4. 患者からの学生に対する不満や苦情、5. 学生の実習記録を読んだ経験について内容の記述を求めた。結果の概要は次のとおりである。(1)対象となった病棟看護師全員が学生の指導に関わっていた。(2)記述内容から読み取った病棟看護師の学生への期待は、【看護援助】【思考・記録】【実習姿勢】【対象の理解】の4つに分類された。実習指導者としての役割は、学生への実習指導と病棟看護師への学生指導上の問題を把握し助言するという役割があると示唆された。

I. はじめに

臨地実習は看護学教育の中で、非常に重要な位置にある授業である¹⁾。看護師3年課程カリキュラムでは総時間数の36%を占め²⁾、多くの時間をかけて行われている。実習受け入れ病院は看護学生(以下、学生と略記)に対して臨地実習にふさわしい場の提供をし、看護師は業務として学生の教育をする役割を担っている³⁾。また、実習指導者は臨地実習中の学生の学習に対する重要な影響因子のひとつであることは報告されている⁴⁾。

筆者らは、臨床実習指導者(以下、実習指導者と略記)としての役割を担い、日々の学生や教官などとの関わり、指導者会・指導者協議会での意見交換をとおして実習指導者としてのあるべき姿を模索し試行錯誤しながら過ごしてきた。しかし、看護業務を兼務しながら実習指導者としての役割、さらには病棟看護師として看護実習指導(以下、実習指導と略記)の困難さと限界を感じてきた。教育は、被教育者である学生を望ましい方向に変容させていくための意図的な働きか

け⁵⁾とするならば、そこには、学生に対する期待が存在する。臨地実習において教育者である病棟看護師が、学生に対し、どのような期待をもちながら実習指導をしているのかを分析する意義は大きい。

そこで、本研究では病棟看護師が学生の老年看護実習に関わって感じたことを問う設問の記述内容から、授業者である病棟看護師が学習者である学生に対し、どのような期待をもちながら実習指導をしているのかを分析し、実習指導者としての役割課題に対しての示唆を得ることを目的とした。

II. 目 的

病棟看護師の老年看護実習指導場面において学生に対して期待することの分析により、実習指導者の役割課題への示唆を得ることである。

III. 方 法

1. 調査期間

A 大学医療技術短期大学部の当該年度の老年看護学

* 秋田大学医学部附属病院看護部

** 秋田大学医学部保健学科看護学専攻

Key Words: 病棟看護師
実習指導者
老年看護実習
期待
看護学生

実習の全過程終了後の平成15年12月1日から12月15日までとした。

2. 調査対象と実習指導の背景

A大学医学部附属病院 7階西病棟所属の看護師のうち病棟担当17名に調査への協力を依頼した。原則として、病棟担当の看護師全員が、学生の受け持ち患者への援助を指導している。調査時点では、17名の看護師のうち1名が臨床指導者講習会を受講し修了していた。

3. 調査内容と調査方法

平成15年度の臨地実習への病棟看護師の関与状況を確認し、実習指導場面を想起してもらいながら、設問に答えてもらった。設問項目は、指導経験7年以上の実習指導者2名で検討し、それまでの学生への指導経験をもとに、①学生との関わりの有無、②行動計画発表時、対応に困ったことがあるか、③学生と一緒に処置・ケアを行って、困ったことがあるか、④患者からの学生に対する不満や苦情、⑤学生の実習記録を読んだ経験の有無、の5項目を問うことにした。

回答は無記名自己記述式とし、対象の看護師に質問紙を配布し、各自が期間中に回答し、回収袋に投函してもらう方式とした。

4. 分析方法

- 1) 臨地実習への病棟看護師の関与状況については、単純集計した。
- 2) 各設問に看護師が記述した内容（以下「記述内容」と略記）のうち、看護師が実際に学生の実習に関わって感じたことを問う設問、すなわち「行動計画発表時、対応に困ったことがあるか」「学生と一緒に処置・ケアを行って、困ったことがあるか」「患者から学生に対する不満や苦情」の各設問に対して回答された記述内容を分析の対象として、臨床実習指導者および老年看護学を専門とする教員からなる研究者間で熟読した。
- 3) 記述された個々の状況で、病棟看護師が学生に期待していると考えられる要因を検討し書き出した。
- 4) 上記3)の要因を類似する意味内容でまとめ、その内容を代表している語句を用いてラベルをつけ、さらに大きいカテゴリーに集約した。カテゴリーの集約は研究者間で検討を重ね、妥当性の確保に努めた。

5. 用語の定義

1) 実習指導者：病棟単位で所属長より任命された看護実習指導の責任者である。研究者のうち1名がこの役割を担っている。

2) 病棟看護師：病棟における看護業務を遂行しながら、学生の受け持ち患者への援助の協力・助言を行う。具体的には、学生の一日の行動計画を確認し、必要時にはアドバイスする。また計画した看護援助の実施にあたっては、学生を支援しながら、受け持ち患者の状態の報告を受けるなどの実践面で学生と直接的な関わりをもつ。

3) 期待：授業者である病棟看護師が学習者である学生に対してもつ望ましい行動変容への期待である。本研究においては、研究者らが記述内容を熟読し、文脈から読みとった、病棟看護師の学生に対して期待していることをいう。

6. 倫理的配慮

調査の主旨を文書と口頭で説明し同意を得た。調査協力は自由意志であること、各自で回収袋に投函してもらうことを説明した。また調査結果は、病棟カンファレンスで報告し情報を共有すること、公表する場合は個人が特定されることがないように配慮することを約束した。論文中では、個人的な内容にふれている記述内容について、意味内容に大きく影響しない程度に修正を加えている。

IV. 結 果

1. 臨地実習での病棟看護師の関与状況

質問紙への回答は17名全員から協力が得られた。各設問への回答数は以下の通りである（表1）。

「① 実習で看護学生との関わりがあったか」については、回答した全員が実習に関わっていた。「② 行動計画発表時、対応に困ったことがあるか」については困ったことがある、4名、困ったことはない、13名であった。「③ 学生と一緒に処置・ケアを行って、困ったことがあるか」については、困ったことがある、5名、困ったことはない、12名であった。「④ 患者からの看護学生に対する不満や苦情を聞いたことがあるか」については、聞いたことがある、2名、聞いたことはない、15名であった。「⑤ 学生の実習記録を読んだ経験の有無」については、16名が読んだことがあると答えていたが、1名は読んでいなかった。

2. 記述内容から読み取った学生への期待

病棟看護師の記述内容から学生の期待が、71件抽出された。記述内容から読み取った学生への期待は【看護援助】【思考・記録】【実習姿勢】【対象の理解】の4つに分類された。

【看護援助】は、「安全な看護技術の提供について考慮する」、「様々な看護技術を体験してほしい」に

表1 臨地実習指導での病棟看護師の関与状況

①看護学生との関わりの有無	関わった	17
	関わらない	0
②行動計画発表時、対応に困ったことがあるか	困った	4
	困らない	13
③学生と一緒に処置・ケアを行って、困ったことがあるか	困った	5
	困らない	12
④患者さんからの看護学生に対する不満や苦情の有無	聞いたことがある	2
	聞いたことはない	15
⑤学生の実習記録を読んだ経験の有無	読んだことがある	16
	読んだことがない	1

分類された(表2-1)。

《安全な看護技術の提供について考慮する》では、『援助内容の報告を確実に行うことの重要性を理解してほしい』『安全に看護技術を提供する』『患者の安全を考えてサポートを求めてほしい』というカテゴリを含み、これらは「援助を実行したら、その結果や反応をその日の担当看護師に報告してほしい。看護師が確認すると実行されて報告していなかっただけのことがある。」「熱い清拭タオルをそのまま患者さんの背中にパタッとあてた学生さんがいた。ビックリした。」「一人で行うには大変と思われる患者さんを一人で行っている時があって、声をかけてもらえたらよかったですと思いました。」という記述内容から読み取った。

《様々な看護技術を体験してほしい》では『様々な看護技術を体験してほしい』『学生さんがどの範囲まで実施してよいかわからない為、対応に困った。様々な看護技術を体験してほしい』という記述内容から読み取った。

【思考・記録】は《看護過程の展開を確実に学ぶ》《患者の個別の問題をとらえ計画する》《わかりやすい行動計画》《重要事項の記銘》《適切な記録ができる》に分類された。

《看護過程の展開を確実に学ぶ》では、『一般論で終わらず対象の反応を記述できるようになってほしい』『十分な分析ができるようになってほしい』というカテゴリを含み、これらは「どうしても一般論になってしまうので、何か実行した・された部分にはもっと反応や状態把握の様子も多く入っているとよりよいと思う。」「得た情報を分析できていないと思った。情報をならべているだけで、だから何なのか書いていない、疾患のことが全然でてこない人もいた。」等という記述内容から読み取った。

《患者の個別の問題をとらえ計画する》では、『計

画立案の理由や注意事項についても理解して実習してほしい』『計画立案は実際の方法を現実的に考えてほしい』というカテゴリを含み、これらは「ただ何をやりますとだけ言われた。理由、どんなことに注意するのか何もなかった。」「シャント造設の患者さんに、丁寧に話を聞いて説明しムンテラにもついて相談にのっていた。」という記述内容等から読み取った。

また《わかりやすい行動計画》では『行動計画はわかりやすく表現してほしい』という期待を、「朝に行動計画をきちんと話してくれたので、一緒に処置やケア・看護を行う時に声をかけやすかった。」という記述内容等から読みとった。《重要事項の記銘》『指導したことは忘れないでほしい』は「前日、指導したはずなのに、翌日には忘れてる。」という記述内容等から読み取った。

《適切な記録ができる》は『感想で終わらず内容を深め、担当患者にあてはめて記載してほしい』という期待を、「一日一日を感想で終わっている人もおり、もっと考察したことの記録があればよい。」などの記述内容等から読み取った。

【実習姿勢】に含まれる期待は《学生主体の援助》《患者との十分なコミュニケーション》《患者に楽しみや喜びを与える存在となる》《患者の予定に合わせた実習時間の調整》《懸命な学習姿勢》《学生が得た情報の価値》《経験の積み重ね》《協調》《職業観を身に付ける》《臨地実習で学べることを積極的に学ぶ》に分類された(表2-2)。

《学生主体の援助》では、『患者に適した援助方法を選択できるようになってほしい』『担当患者への援助はできるだけ学生を参加させたい』『できるだけ学生が主体的に援助できるようにしたい』というカテゴリを含み、これらは順に「物品の方法が学校側と臨床では多少違いがあり学生が戸惑うことがあること。」

「陰部洗浄時、学生の援助を拒否した患者があり、双方の対応に困った。」「看護援助を学生と一緒に行動としてベッドサイドを訪れたが、学生が自ら援助を行おうとせず、実践に学生が参加できないでしまい、良かったのか迷う。」等の記述内容から読み取った。

《患者との十分なコミュニケーション》では、『患

者と十分な会話をして、状態把握に努めてほしい』という期待を「患者のところにおいてコミュニケーションをよくとろうと頑張っていた。」等の記述内容から読み取った。

《患者に楽しみや喜びを与える存在となる》は、『患者に楽しみや喜びを与える存在になってほしい』

表2-1 記述内容から読み取った病棟看護師の看護学生への期待

カテゴリー1：看護援助		
中カテゴリー	小カテゴリー	記述内容の例
安全な看護技術の提供について考慮する	援助内容の報告を確実に行うことの重要性を理解してほしい	計画すると発表した援助を実行したら、その結果や反応をその日の担当看護師に報告してほしい。看護師が確認すると実行されて報告していなかっただけのことがある。
	安全に看護技術を提供する	熱い清拭タオルをそのまま患者さんの背中にバタッとあてた学生がいた。ビックリした。
	患者の安全を考えてサポートを求めてほしい	一人でを行うには大変と思われる患者さんを一人でやっている時があって、声をかけてもらえたらよかったですと思いました。
様々な看護技術を体験してほしい	様々な看護技術を体験してほしい	学生さんがどの範囲まで実施してよいのかわからず、対応に困った。様々な看護技術を体験してほしい
カテゴリー2：思考・記録		
中カテゴリー	小カテゴリー	記述内容の例
看護過程の展開を確実に学ぶ	一般論で終わらず対象の反応を記述できるようになってほしい	どうしても一般論になってしまうので、何か実行した・された部分にはもっと反応や状態把握の様子も多く入っているとよりよいと思う。
	十分な分析ができるようになってほしい	得た情報を分析できていないと思った。情報をならべているだけで、だから何なのか書いていない、疾患のことが全然でこない人もいた。
患者の個別の問題をとらえ計画する	計画立案の理由や注意事項についても理解して実習してほしい	ただ何をやりますとだけ言われた。理由、どんなことに注意するのか何もなかった。
	計画立案は実際の方法を現実的に考えてほしい	シャント造設の患者さんに、丁寧に話を聞いて説明しムンテラにもついて相談にのっていた。
わかりやすい行動計画	行動計画はわかりやすく表現してほしい	朝に行動計画をきちんと話してくれたので、一緒に処置やケア・看護を行う時に声をかけやすかった。
重要事項の記録	指導したことは忘れないでほしい	前日、指導したはずなのに、翌日には忘れていた。
適切な記録ができる	感想で終わらず内容を深め、担当患者にあてはめて記載してほしい	一日一日を感想で終わっている人もおり、もっと考察したことの記録があればよい。
		細かなレポートだが、受け持ち患者との関わりをもっと具体的にされてもよいかと思う。
		一日一日を感想で終わっている人もおり、もっと考察したことの記録があればよい。
		細かなレポートだが、受け持ち患者との関わりをもっと具体的にされてもよいかと思う。

表2-2 記述内容から読み取った病棟看護師の看護学生への期待

カテゴリー3：実習姿勢		
中カテゴリー	小カテゴリー	記述内容の例
学生主体の援助	患者に適した援助方法を選択できるようにしてほしい	物品の方法が学校側と臨床では多少違いがあり学生が戸惑うことがあること。
	担当患者への援助はできるだけ学生を参加させたい	陰部洗浄時、学生の援助を拒否した患者があり、双方の対応に困った。
	できるだけ学生が主体的に援助できるようにしたい	看護援助を学生と一緒に行動としてベッドサイドを訪れたが、学生が自ら援助を行おうとせず、実践に学生が参加できないでしまい、良かったのか迷う。 実習に慣れてきたら準備（清拭の準備など）はととのえておいても良いと思います。
患者との十分なコミュニケーション	患者と十分な会話をし、状態把握に努めてほしい	日々、なかなか行えないベッドサイドでの会話が学生には行えている。患者さんの満足につながると思う。
		患者のところにおいてコミュニケーションをよくとろうと頑張っていた。
患者に楽しみや喜びを与える存在となる	患者に楽しみや喜びを与える存在になってほしい	学生は時間が許す限り患者の側にいることができるので、細やかなところまで援助できる。患者に明るさを与えてくれる。
患者の予定に合わせた実習時間の調整	患者の予定に合わせた実習時間の調整をしてほしい	検査が午後にある時、早目に昼食をとり、準備に間に合うよう時間を配慮していた。
懸命な学習姿勢	がんばって学んでほしい	がんばって学んでほしい。 一生懸命にその患者の疾患や背景を学ぼうとする姿勢が伺えます。
学生が得た情報の価値	細かな観察による重要な情報の提供	患者さんのそばにいる時間が長く、医療者が知らない情報をスタッフに知らせてくれる。
経験の積み重ね	実習で経験する一つ一つを大切にしたい	一つ一つの小さなことが学生の学習に結びついているということが分かる。
		一日を過ごすのに行動計画が少なく「それだけ？」と思うことがある。
協調	実習グループ内のチームワークを保ってほしい	グループの中で記録や行動がみんなより遅い学生がいてもみんなフォローしたり、待っていたりして協力していた事。
職業観を身に付ける	担当患者との関係性 職業人としての姿勢を身につけてほしい	香水が気になる人がいた。 患者さんとの会話は、「友達」同士ではないということを念頭に入れてほしい。
臨地実習で学べることを積極的に学ぶ	実習では治療をうける患者の理解を中心に考えてほしい	検査の見学や看護師の技術の観察や医師の処置の観察がメインで、患者さんにどういった観察や看護が必要なのかわからない。
	患者の個別の問題を十分に考え、積極的に実習してほしい	当日検査のある患者の受け持ち学生が、「今日は大切な日なので、あまりベッドサイドに行かないようにします。」と発表され困った。 朝の申し送り前に患者さんを訪室し、挨拶を済ませて情報を収集してきている事。 机に座って、話している時間が長いような気がします。

表2-3 記述内容から読み取った病棟看護師の看護学生への期待

カテゴリー4：対象の理解		
中カテゴリー	小カテゴリー	記述内容の例
患者の状態の変化を予測できる	実習で関わる期間だけではなくその後に予測されることも考慮してほしい	実習終了後に何かある患者で、自分はいないから関係ないという感じで問題にもあげられていないことがあった。
患者の体調への配慮ができる	患者の状態を見ながら関わってほしい	ずっと側にいて疲れると言われた。

という期待を含んでいる。「学生は時間が許す限り患者の側にいることができるので、細やかなところまで援助できる。患者に明るさを与えてくれる。」等から読み取った。

《患者の予定に合わせた実習時間の調整》は、『患者の予定に合わせた実習時間の調整をしてほしい』という期待を「検査が午後にある時、早目に昼食をとり、準備に間に合うよう時間を配慮していた。」等の記述内容から読み取った。

《懸命な学習姿勢》は、『がんばって学んでほしい』という期待を「一生懸命にその患者の疾患や背景を学ぼうとする姿勢が伺えます。」等から読み取った。

《学生が得た情報の価値》は、『細かな観察による重要な情報の提供』という期待を「患者さんのそばにいる時間が長く、医療者が知らない情報を時にスタッフに知らせてくれる。」等から読み取った。

《経験の積み重ね》は、『実習で経験する一つ一つを大切にしてほしい』という期待を、「一つ一つの小さなことが学生の学習に結びついているということが分かる。」「一日を過ごすのに行動計画が少なく「それだけ?」と思うことがある。」等の記述内容から読み取った。

《協調》は、『実習グループ内のチームワークを保つ』という期待を「グループの中で記録や行動がみんなより遅い学生がいてもみんなでフォローしたり、待っていたりして協力していた事。」等から読み取った。

《職業観を身に付ける》からは、『担当患者との関係性・職業人としての姿勢を身につけてほしい』という期待を、「香水が気になる人がいた。」「患者さんとの会話は、「友達」同士ではないということを念頭に入れてほしい。」等の記述内容から読み取った。

《臨地実習で学べることを積極的に学ぶ》は、『実習では治療をうける患者の理解を中心に考えてほしい』『患者の個別の問題を十分に考え、積極的に実習してほしい』という期待を、「検査の見学や看護師の技術の観察や医師の処置の観察がメインで、患者さんにどういった観察や看護が必要なのか分からない。」「朝の申

し送り前に患者さんのところへ訪室し、挨拶を済ませて情報を収集してきている事。」「当日検査のある患者の受け持ち学生が、「今日は大切な日なので、あまりベッドサイドに行かないようにします。」と発表され困った。」「机に座って、話している時間が長いような気がします。」等の記述内容から読み取った。

【対象の理解】は《患者の状態の変化を予測できる》《患者の体調への配慮ができる》に分類された(表2-3)。

《患者の状態の変化を予測できる》は『実習で関わる期間だけではなくその後に予測されることも考慮してほしい』という期待を、「実習終了後に何かある患者で、自分はいないから関係ないという感じで問題にもあげられていないことがあった。」から、《患者の体調への配慮ができる》は『患者の状態を見ながら関わってほしい』という期待を「ずっと側にいて疲れる。」という記述内容等から読み取った。

V. 考 察

1 病棟看護師が学生に期待するもの

今回、病棟看護師が学生に対しどのような期待をもちながら実習指導をしていたのかを分析し、実習指導者としての役割課題への示唆を得ることを目的とした。

病棟看護師の記述内容から読み取った学生への期待は、【看護援助】【思考・記録】【実習姿勢】【対象の理解】の4つに分類された。

【看護援助】においては、安全な看護技術の提供と様々な看護技術を体験させたい、という期待を読み取った。病棟看護師は有資格者であり、状況によっては学生が提供する看護に対して責任が生じる場合がある。学生が担当患者への援助計画を学生自身の判断だけにまかせるのではなく、適切に助言し、リスクを極力回避しなければならない。しかし、その一方では様々な看護技術を体験してほしいとも思っている。多くの看護技術を体験する機会を得ることは同時にアクシデントに遭遇する機会も増えることになる。この両者は適度なバランスの中で進められなければならない。常に緊

張を伴い、臨地実習でのリスクマネジメントが重要になってくる⁹⁾。リスクを恐れているだけでは体験できることが限られ、臨床能力の向上を制限することにもなる。リスクは最小限にとどめ、できるだけ多くの体験ができるように、実習での安全に問題がないか、注意を払う必要がある。

【思考・記録】においては、看護過程と記録に関する期待を読み取った。病棟看護師は看護過程という問題解決思考の重要性を実感し、学生時代に十分に学んでほしいと考えている。それら看護過程や行動計画、実施記録の表現は、適切な形式や用語を用いて表すことができるよう、確実に習得することを期待していると考えた。

実習記録からは学生の体験した項目や、体験からさらに発展させた学習過程を知ることができる。本来の看護業務と兼任しながらの指導は、時間的な制限がある。発問に対しての学生の反応だけでは、状況に対する学生の理解度や納得の度合いが伝わってこないこともある。また、時には実習場面で重要と感じた内容を強調して伝えようと試みるが、学生にとってその内容が重要であると理解できるレベルに達しているかどうかは不明である。「前日、指導したはずなのに、翌日には忘れている。」という記述内容があったが、関与した結果として学生が学習していない状況では指導側の学生指導への意欲も削がれてしまう。学生の記録に表現されている内容で学習効果がどの程度あったかがわかる。それによって病棟看護師の指導の効果の程度が明らかとなり、病棟看護師側の指導意欲も刺激される。記録について簡潔でわかりやすい表記が期待されていたのはそのような背景があったと考えた。

【実習姿勢】においては、実習に対する学生の主体的・積極的な取り組み方と患者との十分なコミュニケーションやグループメンバーとのチームワーク、さらに看護師としての職業観に対して期待している。学習は学生の主体的・積極的な努力なしには成立しない。学生が自らの経験に意味づけをしていく看護学実習では学生の自己決定を尊重し学生の主体的な学びが進んでいくように助言したり、看護モデルになったり、学習環境を整えることが必要である⁷⁾。患者の個別の問題を十分に考え積極的に実習してほしい、という期待が抽出された背景には、受け持ち患者という対象に対して十分に関心を示し、看護師としての学生の役割や、存在意義を自覚することを求められているものであろう。

看護の実践能力の中には患者や家族とのコミュニケーションができる、患者や家族に対してヒューマンケアリングな関係を成立することができる必要があるとさ

れている⁸⁾。学生は様々な実践能力を習得することを期待されているが、中でも患者や家族との関係を深めることは重要である。また、実習の対象となる老年期にある患者の体験を患者の言葉で聞くという過程が重要である。学生にとっては受身的でなく主体的に対象に関心を持ち続けることを体験し、また患者にとっても学生を相手に自らの思いを表出することにもなる。

病棟看護師にとって、実習生に求められる積極的態度や、学生らしい態度などは、学生がすでに持っているべき資質を問われていると考えられており、指導して導いていくものとは考えられていない⁹⁾、という指摘もある。「香水が気になる」などの学生の態度は実習以前に身につけているものという見方が強く出ているとも考えられる。学生は看護師としての職業観を身につけようとする途上にあり、学生に課する期待は大きい。指導によって導いていくという視点も必要である。

【対象の理解】では患者の状態予測や体調への配慮を期待していた。学生は患者の問題を解決するための看護過程を展開しているが、実習開始時の学生は、現時点で見えている患者の状態が主な関心の対象であり、患者のこれまでや今後の経過にはなかなか注目しがたいものがある。実習を重ねることで、患者の現在だけではなく、徐々に過去や未来についても視野が広がっていくが、患者理解を促す上で、看護師は単に当座の症状や訴えのみに関わるのではない、ということを伝える必要がある。老年期にある患者の遠慮や気遣いを感じ取ることは難しい。患者の側では、言わなくても学生はわかってくれるだろう、という思いもあると推測され、実習に対して、協力してもらう時間や患者の予定に配慮する必要性を強調する必要がある。さらに病棟看護師は、学生の関わりが患者に影響を与えていないか、学生本人には言い出しにくいことを患者が我慢していないか、調整する動きも必要であろう。

2 実習指導者から見た病棟看護師の指導のあり方

実習という授業を受けている学生にとって、病棟看護師は重要な役割を担っている。病棟看護師が責任・役割を意識して指導に携わっているか否かによって、学生を見守る目も大きく変化する。関わる病棟看護師全員が指導上の様々な取り決めや手法を周知した上で指導に携わるなら、学生はさらに伸びていくであろう。病棟看護師の意識づけとして、看護師全員が指導者であることを自覚し、実習の目的を理解してから指導に臨めるように周知の方法を考える必要がある。1人の学生は、複数の病棟看護師から指導を受けている。指導する側の病棟看護師は、患者ケアの質を保証するた

めにも、病棟看護師間での学生への指導内容の共有を図ることが必要である。

シフト勤務にある病棟看護師は実習の指導に関わった後の学生の反応を振り返る機会が少ない。実際にどう感じたのか評価できずに実習が終了してしまうと、自身の関わりがどのような影響を与えたか、深める機会がない。多少、時間のずれは生じてしまうが、記録を通して、病棟看護師にフィードバックすることで指導のふり返しをすることができる。

さらに、病棟看護師は学生に反応を求めるだけではなく、自身も感じたことを素直に学生に伝えていく努力が必要である。日々の何気ない話しかけで、学生を緊張状態から解放することにつながり、その場お互いに評価・修正できる場合もある¹⁰⁾。実習指導者は、学生と学生と病棟看護師の双方向のコミュニケーションがスムーズにいくように考慮する必要がある。

カリキュラムの変遷により実習時間が短くなっており、限られた時間を有効活用して様々な看護技術を体験し学びを深める事を期待すると同時に、効果的な実習を実施するために指導者の存在は不可欠である。学生は実習を重ね体験することではじめて理論と実践の統合が可能となり、自分の持っている技術が役立つことを実感し看護できる喜びにつながるのだと思う。実習中に様々な思考をこらし体験を重ねることにより、現場での即戦力ともなりうる。学生への指導は将来の看護を担う私たちの後輩を育成することにもつながっているのである。したがって、実習指導者は学生が病棟看護師の助言を肯定的に受け止められるように学生と病棟看護師の両者にかかわることが大切であり、リ

ラックスして実習ができるように実習環境を調整することが必要となる。

文 献

- 1) 山田里津監修：最新看護学教育ガイダンス（臨地実習編）。医歯薬出版，東京，1996，p 75
- 2) 看護行政研究会監修：看護師等養成所の運営に関する指導要領について。看護六法。新日本法規出版，名古屋，2002，pp220-221
- 3) 日本看護協会看護婦職能委員会編：看護婦業務指針，日本看護協会出版会，東京，2000，pp3-4
- 4) 明石恵子，水溪雅子他：臨地実習教育学習効果と課題。看護教育38（2）：112-117，1997
- 5) 雄西智恵美，佐藤禮子他：臨床実習における学生の学習効果に係わる実習指導者の態度・行動—学生による臨床実習指導の評価の分析から—。日本看護学教育学会誌 2（1）：23-31，1992
- 6) 日本看護系大学協議会広報・出版委員会：看護学教育，日本看護協会出版会，東京，2004，pp7-11
- 7) 藤岡完治，村島さい子他：学生とともに創る臨床実習指導ワークブック，医学書院，東京，1996，pp2-12
- 8) 新道幸恵：実践力を高める教授・学習方法としての実習，日本看護学教育学会誌 7（3）：47-54，1997
- 9) 森下路子：看護学実習の意義と指導者のあり方に関する質的研究—実習指導者講習会受講生のレポートの分析—。日本看護学教育学会誌11（3）：1-16，2002
- 10) 宮本真巳：「異和感」と援助者アイデンティティ，日本看護協会出版会，東京，1995，pp105-114

Analysis of Ward Nurses' Expectations of Students during Geriatric Nursing Practice

Midori Abe* Shoko Kemuyama** Sakiko Ogasawara**

* Department of Nursing, Akita University Hospital

** Course of Nursing, School of Health Sciences, Akita University

The purpose of this research was to analyse what expectations ward nurses have of students during nursing practice, and to obtain suggestions regarding the role of nursing practice supervisor.

Seventeen ward nurses were asked to report anonymously on the following five areas:

1. Whether they had been involved in student supervision.
2. Difficulties experienced at the time of the action plan announcement.
3. Difficulties experienced in carrying out procedures or patient care with the student.
4. Patient's dissatisfaction with or complaints regarding the student.
5. Thoughts on reading the student's training record.

The results were as follows:

(1) All of the ward nurses surveyed had been involved in student supervision.

(2) From their reports, ward nurses' expectations of students can be broken down into the four categories: Nursing assistance; Thinking and recording; Attitude; Understanding of objective.

It was suggested that the nursing practice supervisor's role was to guide the student nurses and to understand and advise on issues relating to supervising students during nursing practice.